

平成29年度兵庫県立香住高等学校 学校評価及び学校関係者評価

評価は4段階で、4=できた、3=ほぼできた、2=あまりできなかった、1=できなかった  
 ○ 2-1を選択された方は必ず具体的な改善策を自由記述欄に書き込んでください。

1 教育方針	「真理を究め、責任を承し、敬愛を尽す」の校訓の践履と、家庭・地域社会と連携して、夢や志を育む教育を推進し、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立した人間を育成する。	年間評価(%)				総合評価	自由記述	改善への取り組みと改善策	学校関係者評価				
		1	2	3	4								
2 本年度の目標	(1)達成感と自己有用感を育む教育を推進し、自主・自立の精神を培う。 (2)生徒の学習課題に対応した学習指導を行い、学力向上を図る。 (3)進路指導と学年が連携し、進路・就職指導を充実させる。 (4)芸術活動やボランティア活動など、社会に貢献する姿勢を育む。 1 基礎・基本の確実な定着と学力向上を図り、自己の目標の実現をめざした進路指導を行う。 2 人間的なふれあいと規律を重視する生徒指導を進め、命と人権を尊重する態度を養う。 3 学校・地域社会がそれぞれの教育力を発揮しつつ連携し、体系的な活動を重視した魅力ある教育活動を推進する。 4 教育活動全般を通じてキャリア教育の充実を図り、社会人になるために必要な能力と態度を育成する。 5 豊かな人間性に基づいた教育を実施するため、教職員としての使命感と高い倫理観を持ち、明るく、互いに支え合い切磋琢磨する働きぶりを目指す。	43	46	8.6	2.9	95	89	-6	A	<p>○ 表改善 40 ○ おおむね良好 30 ○ 良い 20 ○ 優れている</p>			
3 教育活動の目標													
総務部													
1 防災意識と危機対応能力の向上	・校内防災体制の充実と、防災意識を高めるための避難訓練・消火訓練より実践に即した内容で計画的に実施し、有事への準備を図る。 ・関係機関との連携を図り、地域社会との共同防災体制の研究を進める。	43	46	8.6	2.9	95	89	-6	A	避難・消火訓練を年複数回実施してはどうか。	<p>1) 地域貢献について ○ 先日大雪の中寮生がスコップや、スノーダンプを持って除雪をしていた。身の丈にあった地域貢献が自主的にできている。</p>		
2 積極的な香住高校の魅力発信	・広報活動を積極的にし、学校通信の発行やHPの更新に関係部署と連携を図る。 ・行事計画に基づき記者発表を積極的にし、新聞紙上等を通じて本校の教育活動を広くPRする。 ・オープンハイスクールの内容の充実を図り、入学希望者の増加に努める。	40	51	8.6	0	92	91	-0	A	HPの色使いや配置が見づらく魅力的でない。SNSの活用もよいのでは。 関係部署との連携を図り、HPや学校通信、記者発表を通じて積極的なPR活動を行う。			
3 地域貢献活動の推進	・挨拶活動や清掃活動・クリーンアップ活動・E-いっしょ運動を通じて互いに助け合い、助けられる関係を築く。 ・地域の教育園・幼稚園・小学校福祉施設と連携した文化・環境学習により地域と共に歩むことに取り組む。 ・学校祭や運動会・発表会・学校発表会を通じて香住高校の魅力と地域に発信する。	46	46	5.7	2.9	95	91	-3	A	普通科の魅力はどう打ち出すのか、その方法を考えよう。	香美町の連携・協力のもと、積極的な地域貢献に努める。		
4 安全・安心な学校生活のための環境整備	・学年と連携して、日常の清掃活動やゴミの分別を徹底させ、よりよい学習環境を整える。 ・学期に1度、施設設備の定期的な点検を行い、生徒の安全に留意する意識を高める取り組みを行う。	20	69	5.7	5.7	86	89	2.4	A	施設設備の点検を充実させる。	事務室へのお問い合わせが多いが、トイレ周りの改修をぜひ。 校内外に備わった調査アンケートを実施し、その結果に基づいた安全点検を年に複数回行う。海難防犯・越冬前など、点検が必要な時期を設けて実施する。		
5 生徒の健康増進	・各健康診断を円滑に行い、生徒の健康増進と保健衛生の充実を図る。 ・感染症や事故防止の啓発を積極的にし、健康的な学校生活の意識を高める取り組みを行う。	40	57	2.9	0	100	97	-3	A		全教職員と連携を密にし、学校保健の推進に繋げられるよう、より一層努める。		
6 生徒の内面的サポート体制の充実	・キャンパスカウンセラーによる定期的なカウンセリングを行い、生徒の内面理解を深める努力と情報の共有を図る。 ・支援を要する生徒のための関係機関と連携し、校内サポート会議を開催しより生徒情報と指導方法の共通理解を図る。	60	34	5.7	0	94	94	-0	A		進級指導など新しい課題に対応できる教職員の研修等を計画し、生徒のニーズに応える指導ができる仕組みを整備する。		
7 基礎学力の定着	・調査前の補習などによって、欠点数・欠点数の減少を図る取り組みを推進する。 ・授業の振替などによって、学習時間を減少させ授業時間を確保する。	20	69	2.9	8.6	77	89	11	A	現状・調査前補習は学年主導だと思います。この項目が有るなら、教務主導で日程調整などお願いしたい。 時間割変更も同一日複数の授業は考えてほしい。	ITの副担当にも時間割を表示する。調査前補習時間割は、教務部で日程の微調整を行う。時間割変更において、同一日複数回の授業を避け、目録問題等で自学できる習慣も身につけさせる。		
8 授業の改善	・「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(アクアブランチ)」の視点から授業改善に取り組む。 ・公開授業や授業研究会などによって、学びあいを推進する。 ・学校発表会における学習成果の発表を通じて生徒の自己表現力の育成を図る。	5.7	74	14	5.7	58	80	22	B	授業研究会が授業者の報告会になっていて、あまり意味を成していない。あらかじめ見てほしい生徒を、それについてどうであったかを皆で議論していくべき。 アクアブランチについての研修を教務がリーダーシップを取って行うべき。 授業研究会はテーマを決めて、1人1人の先生にお話しし、深めたい。	教務部で、分掌上の研修担当の設置を検討する。(現行の教務2人態勢では難しい面あり)		
9 カリキュラムマネジメントの確立	・学習実態調査の項目を明確し、正確な現状把握に基づき、高大接続策に対応した教育課程の改善に取り組むとともにPISAスキルに高次元に即したカリキュラムとなるよう体制作りを行う。 ・学校の教育目標に基づき社会に開かれた教育課程の構築と、教科横断的なカリキュラムの研究を行う。 ・地域の教育資源や人材を効果的に活用する方法を研究する。	8.6	60	17	14	64	69	4.7	C	PISAスキルがカリキュラム上で明確でない。Plan(年間指導計画やシラバス)が徹底せず、時間をかけて高年層まで、作成が改善すべき。 授業研究会の報告会を、授業研究会の報告会として、教員が授業の振り返りや、授業研究会の報告会が必要。 授業研究会はテーマを決めて、1人1人の先生にお話しし、深めたい。	シラバスを完全作成し、自己評価及び生徒評価を上半期・下半期に実施し、次年度の指導に役立てる。		
10 評価方法の研究	・入学生態の現状と教育目標に即した評価の見直しを図る。 ・多様な生徒に対応した多面的な評価法の研究を行う。	5.7	66	23	5.7	66	71	5.7	B	絶対評価・観点別評価の導入を早急に行う。 知識・理解のテスト問題を改訂する。教員がテスト作成法(テストバンク)について学べる研修を実施する。海洋の数学の、習熟度別の講座開設ができるのが理想である。	評価規定の見直し検討中。変更案の作成を行う。		
11 校務支援システムへの移行と管理	・校務支援システムへの計画的で円滑な移行を実施する。 ・出欠・成績・帳票出力を一括管理する運用体制を構築する。	14	63	11	11	78	77	-0	B	各教員への周知徹底が必要であると感じた。 学年が主体となっている。教務の出欠管理のより一層のチェックが必要。 学年の教務係の負担が重い。出欠等のチェックの仕方を考えてほしい。	導入二年目に向けて、スムーズな運営のため早期導入と改善点の洗い出しを行う。出欠の入力については、連単位で教務がチェックを行い、未入力の方を考慮してほしい。		
12 規範意識の向上と落ち着いた学校生活	・各学年と連携し、立ち寄り定期的な服装検査等を通じ、また必要に応じて個別対応を行いながら学校のルールの徹底やマナーの向上に努める。 ・年度当初や長期休業前に指導方針および生活心得を配布し、生徒と保護者へ周知徹底と共通認識を図る。	40	51	2.9	5.7	86	91	5.3	A		生徒が守られているという感覚から、「守らなければならぬ」という感覚が持てるよう指導する方法を考えた。取組がはかばかしく、大変だと感じる。		
13 いじめ「暴力」のない学校づくり	・「香住高校いじめ防止基本方針」をより実効性のあるものに改定する。(学校評価、保護者等への情報提供、ネットいじめへの対応)情報交換を密に行い、情報の共有化とともに未然防止、早期発見、早期対応に努める。 ・効果的ないじめアンケートを実施し、即時対応する。	40	51	5.7	2.9	92	91	-0	A		いじめの予防・早期発見・早期対応の実施。		
14 安全・安心な学校生活	・交通安全指導の徹底を図り、自転車事故の加害者にも被害者にもならない指導を行う。 ・関係機関との手分けした安全指導と連携し、周知徹底を図る。 ・禁止事項には関わらないよう積極的な情報提供等を行う。	23	54	17	5.7	78	77	-1	B	交通安全の徹底のためにいじめの未然防止も必要とする。 自転車事故の加害者にも被害者にもならない指導を行う。 関係機関との手分けした安全指導と連携し、周知徹底を図る。 禁止事項には関わらないよう積極的な情報提供等を行う。	安全指導を強化し、生徒の意識の危機意識を高める取り組みを検討する。 交通安全の徹底のためにいじめの未然防止も必要とする。 自転車事故の加害者にも被害者にもならない指導を行う。 関係機関との手分けした安全指導と連携し、周知徹底を図る。 禁止事項には関わらないよう積極的な情報提供等を行う。		
15 生徒活動の活性化	・学校祭やマナーアップ活動等、生徒が主体的に取り組む行事の充実。 ・地域に密着した生徒の活動の活性化。(対外的な活動、ボランティア活動) ・学校規模に適した活動の在り方について、中・長期的な課題として取り組む。	49	43	5.7	2.9	86	92	5.4	A		生徒の主体的な取り組みの場を増やし、積極的なフォローを実施する。		
16 進路情報の発信	・進路情報を集約・整理し、生徒に時宜に応じて提供する。 ・進学・求人情報を校内PCネットワーク上に掲載し、教職員の情報の周知徹底や活用を図る。	17	71	4	5.7	83	85	5.2	A	PCネットワーク活用の充実を図る。	生徒が進路情報を検索して閲覧できるPCがあるという。校務支援システムの活用を図る。 進路閲覧室を利用しやすいよう充実させる。		
17 勤労観・職業観の育成	・学年・科と連携を図り、進路学習や職業体験を推進し、生徒の勤労観・職業観の育成を図る。 ・外部関係の進路説明会やオープンキャンパス、各種職業講座などの案内を行い、生徒・保護者の積極的な参加を促す。	37	57	2.9	2.9	94	94	-0	A		学年と連携し、進路HRや総合学習等で利用できる資料やプリント等を提供していきたい。		
18 学力の定着・育成	・学習合宿や放課後補習を計画的に実施し、生徒一人一人の学力の向上に努める。 ・模擬試験などを積極的に活用し、生徒一人一人の進路実現に向けた学習目標を設定する。	26	66	2.9	5.7	89	91	2.5	A	模擬試験の分析(年度間・学期間)とフィードバックを職員全体で共有。 模試の活用が足りておらず、数をこなしているだけになっている。	学年は模試の度に結果について面談できるといいです。 学年の進路と進路指導部が連携し、職員会議で模試結果を資料として提供する。		
19 生徒一人一人に応じた丁寧な進路指導	・各学年・担任との連携を強化し、生徒・保護者の進路希望を把握する。 ・生徒一人一人の進路実現に向けて、面接指導や個別指導など、きめ細かな指導を行う。 ・職員研修などを実施し、指導力向上に努める。	46	40	11	2.9	83	86	2.4	A	一部の生徒だけに手厚い指導がされている節があり、どのような生徒にも指導がきいたような学習支援システム作りが必要。	指導の中心は担任であり、生徒情報を共有し進路指導部を活用してほしい。		
20 実習船の活用	・実習船(組舟、しゅう)を幅広く活用し、魅力ある教育の充実を図る。 ・アクアコース等の探検航海を行い成果を共有する。 ・シレロの生態の研究や環境DNA分析の手法を用いた研究を行い、水産学会などに参加して成果を発表する。	46	40	11	2.9	83	86	2.4	A		近年は高度な分析技術が要求されることが増加している。大学からの講師を特別非常勤講師の制度を活用して指導を受ける。		
21 学校開放と地域貢献活動	・より開かれた学校を推進するため、本校の持つ人的・物的資源の開放とふるさと貢献事業の充実を図る。 ・自然学校、トライやる、学校間交流、学校水産館、研究発表を行う。	40	46	14	0	89	86	-3	A		地域からの協力が今後より必要になってくる。保護者からの協力体制があるよう幅広い活用ができる。		
22 心のサポートシステムの推進と寄附者運営	生徒指導課と連携し、いじめ、暴力行為減少・克服に向けた実践・研究推進し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。 倉庫長と連携し、寮の運営を行うと共に、保護者及び下宿生さんとの連絡調整にあたる。	37	51	11	0	89	89	-0	A		担当している教員への負担軽減が必要。		
23 資格取得の奨励	・高い専門的な教育を推進し、生徒により多くの資格を取得させる。 ・授業で関連できない箇所は放課後等を活用して補習を実施する。	20	69	8.6	2.9	83	89	5.3	A		今年度改訂したリマスタの運用を兵庫県が実施している技術職制制度との整理が必要。		
24 進路実現に向けた学力の定着と個に応じた進路指導	・学習の記録を活用し、学習計画を立てさせ、学習習慣の確立を図る。 ・模擬試験を活用し、個人面談を積極的にし、個々に応じた進路指導を行う。 ・週末課題、小テスト、補習を計画し、学力定着を図る。	43	46	8.6	2.9	94	89	-6	A		学習の記録や計画表の活用ができなかった。1・2学年のように手帳の活用をしても良かった。		
3 学年													
25 自己の役割を果たす態度を育む	・学校行事などのさまざまな活動において、リーダーとしての役割を意識させる。 ・IR、総合的な学習などの取組を通してコミュニケーション能力を向上させる。	26	63	11	0	95	89	-6	A		多くの生徒に、様々な場面で活躍する機会を増やすことで、自己の役割を果たせるようになることを期待。集団力も大切な、個々の能力を発揮できる場面も必要。		
26 社会的自立に向けての意識を育む	・校内美化、挨拶、服装などを徹底し、規律ある生活態度を身につけさせる。 ・生徒への声かけ、面談などを通じて生徒の実態を把握する。 ・通信などを活用し、家庭と連携する。	26	60	8.6	5.7	89	86	-3	A	最学年としての自覚が不足している物の数がおおかつたのでは。	進路実現に向けての取り組みが、生徒の社会的自立を促す大きな役割を持っている。総合的な学習や、LHRなどを活用できたことは良かった。		
27 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着と応用力の伸張を図る	・到達度テストで自分の弱点を知り、動画学習(HP/イマ)を通して自学自習の姿勢を身につけ、学び直しをさせる。 ・学習別に関連課題や小テストの積み重ねを行う。	23	54	17	5.7	83	77	-6	B		動画学習導入の初年度でも、活用している生徒といていない生徒に差が生じた。次年度は受験勉強に絡めて積極的に活用できるように体制を整える。		
28 進路希望を具体化し、目標に向けて前進する	・あらゆる教育活動を進路実現に向けた取り組みとして指導する。 ・進路実現を図るため、実力テスト、補習等を有効に活用し、具体的な進路目標を明確にする。 ・フィールドワークやガイダンスなどを有効に活用し、オープンキャンパスなどにも積極的に参加させる。	31	69	0	0	94	100	5.6	A	具体的な進路目標が明確になってきたので、それに応じた取り組みを個々の面談で確認しながら授業や補習を通して徹底させる。			
29 基本的な生活習慣の確立を図り、自己管理能力と豊かな心を育む	・手帳を活用して自己管理能力を向上させるホームルームで実施する。 ・朝学習やホームルーム活動を中心に生徒間のコミュニケーションを促進し、他を認める豊かな心を養い、積極的に行動できる精神を育む。 ・海難防犯や学校行事を通して達成感、成就感を味わい、自主自立の精神を培う。	46	51	2.9	0	97	97	-0	A		生活習慣が未だ確立していない一部生徒に対して、社会生活にまでいかに定着させるか、実習や学校行事を通じて指導する。		
30 高校生らしい基本的な生活習慣の確立	・手帳を活用したスケジュール管理を指導する。 ・早寝、昼休み、起床などによって生徒の実態を把握する。 ・学校通信、学年通信、電話連絡などによって保護者との連携を密にする。	49	49	2.9	0	97	97	0	A	遅刻・欠席が多かった。日々の保護者との連携を再構築する。	保護者と面談し、生活習慣の改善について協力を要請する。		
31 学習習慣の確立と基礎学力の定着	・週末課題、小テスト、調査前補習などによって学習習慣の確立を図る。 ・サポート会議との連携によって組織的に学習支援を行う。 ・手帳点検、面談によって学習習慣を指導する。	26	66	5.7	2.9	92	91	-0	A		支援を要する生徒へのサポートとともに、進学を意識した学習指導を行う。		
32 他者を認め集団と社会に貢献する意欲と態度を育む	・入校訓練合宿など普通科海洋科学科合同の行事によって、協力して事を作成することを体験させる。 ・自派、清掃、委員会活動などを通して集団への貢献を指導する。 ・総合学習や進路ガイダンスなどで社会貢献と進路選択について考えさせる。	23	74	0	2.9	95	97	2.7	A		修学旅行を通じて、協働や地域社会への貢献について体験させる。		
33 接遇の向上	・接遇リーダーによる職場内研修を学期ごとに行い、改善意識を高める。 ・職員の間で、外部対応の確に出来るよう努める。	26	69	5.7	0	97	94	-3	A	電話をつないでもらうときにどこからかつてきたのか教えてほしい。	今後、職員の勤務把握に努める。		
34 事務の簡素化と効率化	・副担当制の有効活用により、事務効率を高める。 ・事務分掌の見直しを積極的に進め、事務能力を高め、効率化を図る。 ・学期ごとに事務業務の見直し検討を行い、効率化を図る。	23	63	14	0	92	86	-6	A		引き続き事務業務の見直しを進め簡素化を図る。		